

運動栄養学科では附属高校（仙台大学附属明成高校食文化創志科（調理科））と連携をし、食育事業を実施しています。今回は、岩沼市立玉浦小学校で地域の特産物「玉浦白菜」の定植～収穫をお手伝いしました。本学科では、農業体験を通じた食の学びや食育の実践的体験ができます。明成高校ブログは[こちら](#)



本学科から栄養教諭取得を目指す学生2名、高校から1名が参加（写真左）。教わった白菜の苗の植え方をサポートしながら、児童への接し方などを体験（写真中央）。定植が終わった畑（写真右）。



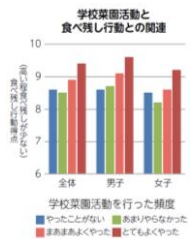
大きく育った白菜（写真左）。白菜の選び方を教えながら、児童への接し方などを体験（写真中央、学生は左の女性）。白菜の選び方や収穫の方法を説明しているところ（写真右）。

なぜ食育として農業体験なのか？

農林漁業体験は、食べ物に対する「意識や関心の変化」、食べ物に関する「意識」「知識」「嗜好」「食行動」「心の健康」と関係していることが分かっています*1。第3次食育推進基本計画では「農林漁業体験を経験した国民を増やす（目標11）」ことが掲げられており、農林漁業体験を通じた食育ができる栄養士が求められています。

*1「食育」ってどんないいことがあるの？

<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/evidence/part2/pdf/all.pdf>



「玉浦白菜」とは??

大正時代、宮城県の松島湾に浮かぶ島々で「ハクサイ」の種が量産されるようになりました。この「ハクサイ」の種は宮城県内全域に供給され、宮城県は大正末期から昭和初期にかけて生産量が全国一の「ハクサイ王国」になりました。特に岩沼市の玉浦地区は県内でも生産量が県内一を誇り、「玉浦白菜」ブランドとして販売がされていました。



発行者：講師 平良拓也

（体験した学生の声）
農業体験活動を通じた食育では、栽培についての知識に加え、農家の方々や食べ物への感謝といった道徳観も身につけられることを知りました。スーパーに並ぶきれいな状態とは異なり、虫に食われていることに驚いている児童もいましたが、種植えから育てた白菜を大事そうに収穫していました。収穫した白菜は給食でも使用されるということで、「栽培・収穫・食べる」といった一連を行うことが農業体験活動では大切であると学びました。